

會員 上村 哲 由



信友の皆さんもいろいろな地域で活動しておられると思いますが、現職時の経験を生かし、退役した老兵も災害派遣ならぬ災害ボランティアは如何でしょう。

をご存知でしょうか？

阪神淡路大震災以来、災害ボラ
ンテアの機運が高まり、全国各地
に平素から組織されています。神
奈川県でも各市町に逐次組織され
たが相模原にも数年前に相模原災
害ボランテア・ネットワークが結
成されました。

災害ボランティア・ネットワークの目的は災害発生時に全国各地から集まるボランティアの受け入れや派遣管理を行うボランティア・センターの立ち上げ・運営を関係機関と協力して行うことを目的とし、平素から災害時に対応できる知識と経験を積むとともに顔の見える

平常時には市民や青少年に対する災害対策等の啓発講座の開催や各種訓練の実施等を行い、自分らの地域に大災害が発生したときは災害ボランティア・センターのコーディネートとして活動し、近隣地域の大災害に際しては現地の災害ボランティア・ネットワークと連携をとり積極的にセンター運営等に協力することとします。

センター運営が極めて重要で、三年前の中越地震の際は現地ボランティア・センターの運営状況を研修してきました。

各市町のボランティア・センターには全国各地の社会福祉協議会等から派遣されたスタッフが地域ボランティアと一緒に運営に当たっていますが、コーディネーターとしては外部の者より地元の状況を熟

知している者が望まれます。

然しながらが地元は被災者側でコーディネーターの研修等を受けた適任者も被災しておりボランティアとして活動できる者は極めて少ないと予想されます。

今年の柏崎等でもボランティアの管理に混乱していたようです。

それで平素から必要人員の何倍ものコーディネーターを養成する必要を痛感し、わがネットワークでは毎年コーディネーター養成を

行なっています。
掘り起こし・ボラントの適材適所への配分・両者のマッチング等で平時のハローワークのようなものです。

自衛隊OB特に永年幕僚勤務等の経験した人は高齢でもコーディネーターとしては適任でしょう。若いうちは災害派遣の経験や現職時に体得した各種特技を生かし災害ボラントとして現場で活躍できる分野は多くあり、又災害派遣中の自衛隊との仲介役としても役立つ」と思います。

平時の各種防災訓練でも自衛隊で経験した図上訓練や特技訓練が

力会設立されました。
各県とも逐次設立されるでしょう。

この協力の支援活動即ちシビル・ディフェンスも大規模災害時の対処要領に共通点が多々あると思われ。この観点から地域の間々と顔の見える関係を造り各種訓練を重ねておくことが重要でしょう。

「老化解防止にも役立ちますよ。頑張ろう！老兵」

最近の新聞に

怒ること



Dr. Shiro Kikuchi is a Professor of the Department of Chemistry, Faculty of Science, Yamaguchi University, Yamaguchi, Japan. He received his B.S. and M.S. degrees from Yamaguchi University and his Ph.D. from the University of Tokyo. He has been a member of the Japanese Chemical Society since 1978 and the International Union of Pure and Applied Chemistry since 1985. His research interests are in the synthesis of new organic compounds and the development of new synthetic methods.

退いてからは十七年ほどになりました。循環器系にトラブルを抱えながら何とか元気に過ごしています。今、気象関係の会社の主伝いをしています。通勤時に必ずといっていいほど産経新聞を買って読んでいます。産経が好きなことと一部百円ポッキリときりがいいことがその理由です。家では読売新聞をとっています。

また、ネット上で朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞

も時見えています。

それぞれ特徴があって面白い。読ふや、右経はそれとすれば、産経は右寄り、日経はニュートラルに近く、東京が左寄り、朝日が大大左寄りの感じがします。

防衛庁の省昇格、憲法改正の手続きである国民投票法、教育基本法の改正、靖国参拝問題、集団的自衛権の行使、テロ特措法期限延長問題等の報道姿勢、社説の内容をみれば一目瞭然です。

この中で特に朝日の報道姿勢が気になります。あれだけの発行部数に有する新聞が徹底した世論誘導を意識的、計画的にやっていることです。徹底した反権力、反政

い内容が多い。またオピニオンの正論欄も同意しやうい内容が多い。同様の志方源之君やすけの森本純君なども正論欄のメンバーで活躍しているのも頼もしいところです。新聞と違いますがNHKのホームページも時々見えています。NHKは公共放送ですが、その報道姿勢は中立とはいえない。

特に安全保障問題、中韓や北朝鮮問題などは左に偏った報道が多い。左右両面からみて中立的な報道をして貰いたいものです。

この欄を書いている時点では、テロ特捜法期限延長問題は、全然先が見えない状況です。

国益を踏まえ将来を見通した考

え方・世論に十分反映してくるようになれば、状況は変わるかも知れません。マスコミも含めPRが居らない気がしますが、

安部内閣が退陣し、戦後体制からの脱却の掛け声も影が薄くなってきました。戦後体制の脱却が準備は一番固いのは朝日と思われれます。それは自己否定につながるからです。日本の伝統、精神文化などから。一番排斥してきた報道機関だからです。これから戦前戦後を問わず日本のよいところを見直し取り入れるべきところは十分取り入れ、新しい道を切り開いていかなければ日本の将来はないと思います。報道の媒体は新聞、テレビ、

が、若い人には、ネットの影響が大きいです。

新しいネット社会がどう進展していくかは興味深いところです。便利になってきた反面弊害もいろいろできてきています。いい方向に進み是非進んで貰いたいものです。以上新聞などにまつて勝手に意見を申し上げてきましたが、いちいち目くじらを立てることはなないかもしれません。

これからは、瀬戸内寂聴さんがいわれるように「今を切に生きる」を目標に過ごしていきたいと思つてます。今の瞬間を精一杯、丁寧に生きることが幸せにつながる、と説いています。

れば、とにかく重く、したがって選挙上の意識はその国や都市の将来を憂う、ともいえる。それは防衛・白衛隊とよくいふ分野においても同様であり、現役や〇Ｂの選挙への関心度は、明日の防衛や白衛隊を占うものとも言える。現役諸君に政治的・政治的中立を求められ、政治的活動も制限されていることから、選挙への対応については慎重でなければならぬが、それが仮に政治的関心でも低下させているとしたら問題である。特に今回は一身を賭して政治家への道を決断した現役からの候補者が出現したわけであり、「よくぞ立ち上がったわね。」という感謝とともに大いに



いだろう。この比例代表選挙制度は全国各地を遊説してまわるのが大変だから、結果的に勝つために「全国組織に支えられた候補」や

にいたるまで地域格差の問題が議論されているが、活動を通じて〇Ｂ方々の活力にも地域格差を感じた。九州のある県においても、Ｂ活動が活発な地区と不活発な地区とで得票傾向に地域差が出た、という。ある〇Ｂは多忙な勤務の傍ら県内各地を飛び回り、ある〇

年はじめから思いもよらず参議院選に関わりを持つことになり、貴重な体験をさせて貰った。七日二十九日二十時を過ぎてまもなくＴＴテレビ局のいきなり「当確」の報に、あつたなく我々の戦いも終わつた。わたしは「時間の許す範囲で支援」ということで半年余り

こうした「有名人候補」に頼る傾向を生み、選挙制度が形骸化して行く。また、この情報化時代化に、限られた時間内に全国を回り名前を売り、票を集めるというこうした選挙制度自身にも疑問がある。真面目に政治家を志す者にこれほどのエネルギーと労力を入り口で使わせるより、わが国が抱える諸問題の解決のために当選後使われるような制度を考えるべきである。なんとも時代遅れの選挙制度だ、

Bは無難の立場ながら身銭を切って協力者回り・支援組織つくりにより奔走し、候補者のためというより自衛隊の将来のために頭が下がるといって活動された。頭が下がった。いつてもれば二五万票の大半はこうした「地域の活動家」の惜しみない努力によって丹念に掘り起こされたものであり、その票数は重い。

退職後のOＢの生活・勤務環境が地域によって異なるのは当然だが、処遇や援護の違いはあっても、汗

活動だが、西方担当については信友のG先輩やM君、T君に助けを頂きながら、なんとかお役目を果たすことができた。以下、参議院選挙に関わって特に感じた三ポイントについて述べたい。

時代遅れの選挙制度[比例代表区] 比例代表選挙は選挙区選挙と違い、全国を選挙区とする選挙であるから当然のことながら、通常、候補者は全国各地を回り、名前や主張・政策を浸透させなければ得票に結びつかない。期間中、有名な候補やSババ候補がどれどれな全国を飛び回ったか知らないが、少なくともヒゲの佐藤はど全国を隈なく、熱心に回った候補はいな

と痛感した。

政治的活動と政治的関心

この参議院選挙も投票率は58.6%であり、国民の政治的な関心度は相変わらず低調傾向を続けており、その底流に「国民の政治離れ」を感じ、相次ぐ政治家のつまらぬ不祥事を騒ぎ立て、政治の本質を見失わせるのも問題だが、政治に対する期待とその期待に立えきれない政治家への不信を峻別できない選挙民側にも責任は残る。

失望や根拠依然の派閥政治への極悪感が根底にあるのは周知のことだが、誰かがこの国の舵取りを担わないと国も自治体も経営が成り立たなくなる。選挙権の行使はそ

力まで地域差があるとしたら寂しい感じがする。選挙運動はともかくどこに住もうが、なにをしようが何かに熱中できるような「OBの活性化施策」を考えてみる必要があるのではないか、と感じた次第である。

振り込みのお願い

今年度は通信等事務費の払い込み年度になっております。同封の振込用紙により振り込んで頂きますようお願いいたします。

中央即応集団(CRF)の通信

中央即応集団司令部通信課長

光井 章

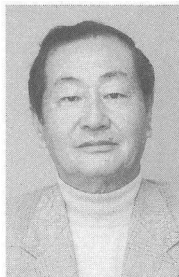


平成十八年の統合運用体制への移行、平成十九年の防衛庁の省への移行と国際貢献活動の本来任務化等、自衛隊が創設以来の変革の時期を迎える中、去る平成十九年三月二十八日、国内の各種事態への対処はもとより、国際的な平和協力活動等を担担する中央即応集団が編成されました。中央即応集団の新編は、方面隊並びの部隊として編成され、四十七年ぶりの大事業であり、編成完了に向けた準備期間においては、陸幕、東方総監部、通信団、東方通信群等から多大なるご支援をいただくこととなりました。新設された司令部庁舎に必要な各種通信機器の整備を、どうにか新編の日までに間に合わせることであり、そして新編と同時に、ゴラン高原兵力引き離し監視(UNDOF)派遣部隊を指揮することにも、国連ネパール政治ミッション(UNMIN)派遣要員の管理を担担、また新潟県中越沖地震災害への部隊派遣等、日々各種任務に対応しております。

中央即応集団における通信関係部隊は、集団司令部に通信課、集団司令部を支援する司令部付隊通信小隊、そして各隷下部隊にそれぞれ通信小隊、班があります。中央即応集団には、方面隊や師団のようには総監部・司令部と隷下部隊間の指揮・連絡を担担する方面通信群や師団通信大隊のような通信専門部隊を有していません。その通信能力は極めて限られたものとなっております。それら通信部隊をもつて果たすべき任務は、国内では派遣先方面隊の通信組織への加入であり、他方国際任務においては、海外派遣部隊と本邦に所在する集団司令部との間の通信確保であることと理解しております。

イラク復興支援活動における通信や新潟県中越沖地震災害派遣における通信所要から明らかなように、今後の諸活動においてはデータ通信所要の増大が必然であり、それに対応できる物的・人的態勢の整備が重要だと考えております。一方、国際貢献活動において主用するであろう衛星通信回線は平素保有しておらず、また教育訓練で使用する状況にもありません。また野外通信設備は当面七九式という状況であり、即応性及び教育訓練環境が必ずしも万全という状況ではありません。派遣される部隊及び隊員一人一人が自信を持って任務に当たれるようにするためには、平素の十分な訓練が重要であり、通信構想の具体化による訓練目標の明確化と実際の訓練を可能にする基盤の付与が必要だと考えております。当面、与えられた環境の中で、通信団の全面的な協力を得つつ、IP化されたネットワークの構築能力等について練度向上を図っており、少しずつではありますが戦力化が進捗しつつあると認識しております。

東北方面通信群OB会長 片田 毅



信友会会員の皆様及び機関誌「信友」ご愛読の皆様へ杜の都仙台から「みちのくだより」です。先月大日向邦利氏の「北の国だより」を拝見し、かつて仙台で一緒にした頃を思い出しながら「みちのくだより」の筆を取ることにしました。

杜の都仙台は皆様ご承知のとおり伊達二万石の城下町です。独眼竜という異名を取った伊達政宗公が青葉山に築城したのは慶長七年(1602年)です。四〇〇年余りたった今も一〇〇万都市として、かつての栄華の香りを残しています。青葉城は復元された隅櫓を除き石垣だけが残っており、私事で恐縮ですが津軽育ちの私が杜の都仙台(実は多賀城市です)に理由からです。私の唯一の趣味が籠釣りで、津軽に帰っても五ヶ月間は雪のため釣りになりません。一年中籠釣りができるところはみちのくでは仙台近辺だけです。従いまして自動的に仙台圏

に永住することに決めました。自衛官として勤務していた時、第二の職場で働いていた時には気が付かなかったのですが、仙台圏の年間積雪量と積雪回数は東京圏と同じです。さて、本題に入りますが、東北方面通信群には、東北方面通信群協力会と東北方面通信群OB会があります。通信群協力会は、第八代通信群長上田一佐(上田愛彦元陸将)のご尽力により、昭和五十四年に民間の方々だけで発足しました。

た。通信群協力会会長には菅原萬氏(双葉総合商社・株代表取締役・宮城県防衛協会副会長・宮城地方協力本部協力会長)が発足時から現在に至るまで頑張っておられます。現在の会員数は、数名のOBを加えて二十名です。OB会は基連大が昭和四十九年、運大が昭和五十四年、搬中と群付が昭和五十六年にそれぞれ発足しました。通信群OB会には各部隊OB会の上に乗り形で昭和五十七年に発足しました。初代会長は宗形正典氏でした。会員数は約三百十名です。なお、

三〇五基連中OB会(青森)は平成三年に、三二五基連中OB会(神町)は平成五年にそれぞれ発足し独自の活動をしております。協力会及びOB会の活動は、各方面通信群とも大同小異だと思いますが、一つだけ特色ある活動を紹介します。主体は協力会ですが毎年部隊隊員間を行っております。基地部隊と野外部隊を隔年毎に行っております。今年は基地部隊の番です。普原会長以下役員の方々が手分けして十三個駐屯地の部隊慰問をしていただきました。O

みちのくだより

計 報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(H19.11.01現在)

氏名	逝去年月日	住所
大河原 四郎	H19.11.10	山形県東置賜郡
村上 匡佑	H19.11.02	埼玉県川口市
梅川 允男	H19.04.29	埼玉県ふじみ野市
大和田 美徳	H19.03.07	宮城県仙台市
飯 嶋 達	H19.02.01	神奈川県相模原市
高 橋 篤	H19.01.20	熊本県熊本市
渡 辺 正	H18.12.16	東京都練馬区
下 山 一成	H18.12.03	神奈川県横須賀市
竹之内 龍彦	H18.12	熊本県熊本市
畑 山 義男	H18.11.28	高知県高知市
鈴木 猛	H18.11.14	埼玉県北葛飾郡
森 山 條夫	H18.11.07	福岡県福岡市
稲 葉 昭八	H18.10.31	宮城県仙台市
大 柿 大一郎	H18.09.19	埼玉県所沢市
岩 水 公雄	H18.07.21	広島県東広島市
池 上 進	H18.04.12	神奈川県横須賀市
渡 辺 修	H18.03.03	北海道札幌市
遠 藤 棟一	H18.02.16	埼玉県富士見市
袴 田 廉	H18	京都府京都市
重 富 熊雄	H17.12.05	福岡県福岡市
横 沢 一二	H17.08.11	埼玉県川越市
三 原 康功	H15.11.04	長野県安曇野市
栗 原 晃	H10.01.21	東京都青梅市

信友会新入会員名簿

(平成19年2月1日版「信友」掲載以降の入会者) (H19.11.01現在)

氏名	現住所	最終所属 退職年月日
江口 彰彦	福岡県福岡市	
熊澤 正純	栃木県下野市	陸幹校 H18.12.06
富塚 信雄	宮城県白石市	東北通群 H18.12.06
櫻井 主久	東京都府中市	中基シ通隊 H18.12.09
中邑 美智子	埼玉県さいたま市	通保監隊 H18.12.12
佐藤 正之	千葉県市川市	通信団本 H18.12.14
井上 雅春	埼玉県和光市	通信団本 H19.01.13
櫻林 孝夫	千葉県千葉市	中シ管隊 H19.01.15
風間 敏榮	埼玉県比企郡	通信団本 H19.01.23
松浦 保紀	神奈川県横須賀市	第1電子隊 H19.02.11
角 和三郎	千葉県山武郡	通信団本 H19.02.12
小関 敏郎	北海道恵庭市	北 処 H19.02.13
曾根 敏昭	北海道札幌市	101基シ通大 H19.02.15
堀江 功	東京都練馬区	通保監隊 H19.04.28
松崎 清和	北海道札幌市	北処整備部 H19.06.08
内田 将之	北海道千歳市	1電子隊 H19.06.27
田中 隆	北海道札幌市	北通群 H19.07.19
中村 直祐	北海道札幌市	101基シ通大 H19.07.25
佐野 一彦	東京都三鷹市	通信団本 H19.08.01
長尾 民徳	熊本県菊池郡	西方総監部 H19.08.01
涌井 達男	埼玉県さいたま市	通信団本 H19.10.23
濱武 成康	熊本県合志市	西方通群 H19.10.29

